

第二次能美市総合計画 第4回基本構想策定審議会

議事概要

日時：平成29年5月15日（金）10：00～11：40

場所：能美市役所 大会議室

－ 議事次第 －

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 会長挨拶
4. 審議事項
 - （1）前回からの修正について
 - （2）最終答申について
5. 閉会

<会議風景>



■議事概要

(1) 前回からの修正について

◆会長

- ・この基本構想・基本計画の各種施策の推進方針について次にご説明いただく予定となっているので、その内容も踏まえてご質問いただければと思う。事務局より推進方針についてご説明いただきたい。

◆事務局

- ・まず、市役所の全職員が総合計画をしっかりと理解し、常に問題意識をもちながら日常の業務にあたることが重要と考えている。また、本計画は7分野42施策に区分されており、昨年度、北陸先端大との共同研究により再構築した新行政評価システムにより、施策単位ごとに計画の進捗管理と評価・検証・改善、いわゆるPDCAを回しながらまちづくりを行っていくこととしている。
- ・市役所の内部評価においては、各課より「行政評価推進委員」を選任し、引き続き、北陸先端大のアドバイスをいただきながら、データに基づく現状の把握や課題発見を行い、状況を関係各課が共有しながら市民の声を反映した有効な改善策の立案と事業の推進を図っていくものとする。
- ・これら一連の評価作業を進めていく過程においては、これまで以上に部課横断での協議と連携が不可欠であり、必要に応じて事業推進のためのプロジェクトチームを編成してまいりたいと考えており、おのずと「横系プロジェクト」の推進が図られるものと思われる。
- ・第三者による外部評価と評価結果を開示することにより、市民や企業の皆様とのさらなる協働が可能になってくるものと思われる。今後ますます、市の財政状況も厳しさを増していくことが予想されるが、まずは新行政評価システムの定着と北陸先端大との連携をしながら、職員の人材育成、PDCAがしっかりと回る市役所としての組織力強化を図りながら、総合計画の着実な推進に努め、「暮らしやすさを日本一実感できるまち」を目指してまいりたい。

◆会長

- ・この第2次能美市総合計画は本当に良くできていると思う。市職員の皆様に敬意を表したい。しかし、やや具体性に欠ける部分がある。実際にどこからどう具体化していくのかをウエイト付け・優先順位付けし、市民の皆様にわかりやすく示していただければと思う。

◆委員

- ・目標数値が掲げられているが迫力が感じられない。新旧対照表の13ページに「地域ブランド調査の知名度の順位向上」を掲げているが、600位や200位というのはどんなものなのかわからない。ナンバーワン・オンリーワンの施策への転換というの

は不可能なのか。

◆事務局

- ・現実的なところで目標数値を設定している。意気込み的には全国ナンバーワンを目指すということで、基本構想の中でも「暮らしやすさを日本一実感できるまち」を掲げている。一方で、今後しっかりと評価・検証していく必要があり、あまり目標数値との乖離があってはいけないと思い、現実的な数値目標としている。

◆委員

- ・600位や200位というのはどんなものなのか。

◆事務局

- ・地域ブランド調査は、全国の市と東京23区など、たしか1074都市が対象となっている。その中で能美市は600～700位を推移しており、これを200～300位程度まで上げていくとなると大変な作業になると思っている。今年度、市長戦略室もできてしっかりとアピールしていくことになるため、この順位を達成できるように全庁挙げて取り組んでまいりたい。

◆委員

- ・新旧対照表30ページについて、以前から公共交通の充実について興味・関心をもっている。既存の公共交通を補完するものとして、全国的にはオンデマンドタクシー（事前予約型・低料金の乗り合いタクシー）を導入している事例がある。「のみバス」を補う地域交通としてオンデマンドタクシーの導入を検討していただきたい。こちらにおられる委員や職員の方々も「のみバス」を年に何回使っているかわからないが、自分たちが利用したいと思える公共交通であるべきだと考えている。コミュニティバスだけでは限度があるということで発言した。

◆会長

- ・今ほどの意見はぜひ参考にさせていただければと思う。

◆委員

- ・都会では歩くが地方では歩かない。私も東京へ出張に行くとたくさん歩くが、こちらではほとんど歩かない。これが健康に良いかと言われると悪い状況であり、歩くことについて意識改革をしていく必要がある。歩くようになれば、公共交通網の利用促進や地域福祉施策の展開、スポーツの振興、産業振興、商業活性化にもつながり、地方都市のイノベーションにおいて重要な施策になると思う。今後、東京オリンピックの2020年に向けて、自動運転や自動翻訳などの技術がどんどん普及していくものと思われることから、将来的な変化を見据えながら歩くということの意識改革をしていく必要がある。

◆委員

- ・意識改革について、大人はもちろん子どもたちの意識改革をしていくことか将来の能美市にとって重要だと思う。クルマでの送迎が当たり前になっており、子どもたちが歩かなくなっているのは問題である。屋外での遊び場づくりが大切であり、学校教育においてもクルマでの送迎は禁止してもよいのではないかなと思う。

◆委員

- ・54－55ページ「移住・定住の促進」について、空き家バンクの登録件数が目標指標に掲げられている。2013年の調査で433件の空き家があるとのこと、この数字が目標指標設定の分母になっていると思われる。しかし、これらの空き家は水回りや上下水道の問題で居住困難なものが多いと思われるため、分母の見直しが必要ではないか。また、空き家の解体についてどのように進めていくのかを尋ねたい。
- ・56－57ページ「若者のライフデザインの支援」について、能美市出身の大学4年生に対して、卒業後に能美市に残留あるいはUターンしている実態や、残留・Uターンしない理由について調べ、対策のきっかけにいただければと思う。
- ・60－61ページ「観光と交流の推進」について、目標指標の観光入込客数があまり景気の良い数字となっていない。プロモーションによる能美市の知名度向上を図る中で、妥当な目標値なのか精査をお願いしたい。
- ・68－69ページ「地域医療の推進」について、市立病院の管理運営において指定管理者制度の導入を考えてはどうか。全国の70程度の公立病院が指定管理者制度を導入しているようである。その点を主な取り組みに加えていただき、長期的な視点で検討していただければと思う。
- ・100－101ページ「商業の振興」について、「能美根上駅周辺の活性化」と記載されているが、むしろ「再開発」くらいのことを考えていく必要があると思う。「再開発」という文言を入れていただければと思う。
- ・130－131ページ「歴史・文化・伝統の継承」について、新しく朱書きで「能美古墳群の再整備」を加えていただいたのはありがたいことである。「さらい」（能美市ふるさと交流研修センター）に宿泊された方が、朝の散策のときに少し山へ登って足元の古墳群を眺めて、白山の眺望も楽しんでもらえるようなことを考え、以前にも要望させていただいた。

◆事務局

- ・空き家調査については、実施してから少し年数が経過しており、当時は外観目視調査のみであったことから、今後、町会・町内会の皆様と連携しながら、改めて調査を実施する必要があると考えている。空き家の解体・除却については、関連業者の皆様と連携しながら進めていきたいと考えている。
- ・「若者のライフデザインの支援」については、ご指摘のとおり、大学生の残留・Uターンに関する調査は実施していないことから、しっかりと現状を把握し、対策を検討し

ていきたいと思う。

◆事務局

- ・観光入込客数の目標指標については、ご指摘のとおりであり、再度確認し、目標値を上げられるかどうか検討させていただきたい。

◆事務局

- ・市立病院への指定管理者制度の導入に関しては、新改革プランを踏まえ、まずは経営の効率化に努めながら検討を進めていきたい。

◆事務局

- ・能美根上駅周辺の活性化について、「再開発」という文言を入れてはどうかというご指摘であるが、駅周辺には私有地があまりないという状況の中、再開発は理想的ではあるが、文章化に際しては地元との協議・調整や承諾が必要となる。43ページの横糸プロジェクトにある「中心市街地や駅前の魅力アップ」を地元の皆様とともに議論しながら検討していきたい。

◆会長

- ・能美根上駅の件については、以前にも田上委員より市全体の拠点整備をどうするか、市役所の場所を含めて検討すべきとの指摘もあったことから、今後の議論の中で検討していただきたい。

◆委員

- ・基本計画をPDCAに基づいてアクションにつなげていくという話であるが、大切なのはチェック（C）の部分である。どのようなチェックをし、計画を変更してアクションにつなげていくのかが本計画の中では見えない。

◆事務局

- ・市役所内部においてもしっかりと連携しながらチェックを行っていききたい。また、外部の評価委員も選定する方針であり、総合戦略や総合計画の策定に携わっていただいた委員の皆様の中からも選定させていただく方向で検討中である。また、先端大の研究機関のご指導もいただきながらしっかりと取り組んでまいりたい。

◆会長

- ・新市長のもと、総合戦略や総合計画をしっかりと進めていくための組織体制を考えてもらう必要がある。全体の進捗管理（進行役）や責任を誰がもつのかというところを検討しておくべきである。

◆委員

- ・ 64－65 ページ「国際交流の推進」について、目標指標が「ホームステイにおける外国人受け入れ数」となっているが、国際交流協会で先端大の短期留学生の受け入れをしていたり、年末年始の家庭体験で一日ステイを実施することで交流を続けてきている。これらの取り組みは一部の人にしか知られていないかもしれないが、現況値や目標値の数値が小さいのでもっと上げてはどうか。

◆事務局

- ・ 目標指標の数字はジャパンテントでの受け入れ人数である。ご指摘のとおり、他にも先端大や国際交流団体の方々の取り組みが行われており、それらの数字も加味することも考えたが、確実な数字として掲載している。今後、先端大や国際交流団体の皆様と連携強化を見据え、2026年目標値については再度検討させていただきたい。

◆会長

- ・ 先端大は大学院であることから、留学生が地域の方々と交流する機会がこれまで少なかった。それを何とかしたいところである。留学生が地域に溶け込んでいくことで、その子どもたちが何となく英語に馴染んだり、楽しく交流できるようになれば良いと思う。

◆委員

- ・ 非常に網羅的できっちりとまとまった計画になっていると思う。目標指標の設定については非常に難しいところである。知名度向上についても、一番を目指すことは可能だが、実際にはほぼ不可能に近い。今の目標値でも達成困難である。金沢市ですら、ずっと9位や10位であり、新幹線開業でようやく7位くらいまで上がった。石川県内で100位以内に入っている市が他にどれだけあるかという、はっきり記憶していないが輪島市くらいだったと思う。北陸三県で200位以内に入っているのは小松市、高岡市、富山市くらいである。合併市で名称が変わった都市が上位に入るのは難しい。知名度を上げることも非常に大事だが、「住み良さ日本一」の方が重要であり、これをどう維持していくか、ということの方が大事だと思う。
- ・ 今回最後の審議会となるが、今回の見直しの中で、地域の拠点整備を新たに加えたことはとても重要である。コンパクト&ネットワークの考え方をもとに、立地適正化計画と公共交通網形成計画をセットで策定し、地域づくりの施策を展開していくことが国の方針になっている。能美市でもその考え方を計画の中で示していくことが非常に重要である。基幹都市軸と地域連携軸を明確に示した中で、のみバスを中心とする地域公共交通を配置し、路線やダイヤを見直しながら運用していくことが大切である。また、先ほどの意見にもあったオンデマンドタクシーを入れることについても、市民満足度調査でも回答者の21%が望んでいることから、前向きに計画の中に書きこんで

いくことが重要である。

- ・市民や子どもの意識改革が大事ということはご指摘のとおりであり、市の目標にも掲げていただきたいと思うが、言うは易し・行うは難しであり、意識が変わっても行動に移すまでに時間がかかる。意識改革さらには行動変容を促す取り組みを展開していく必要がある。
- ・知名度向上のためのプロモーションによるブランド化は非常に重要であり、能美市の売りはやはり「九谷」だと思う。「九谷」は全国ブランドでよく知られているが、能美市と九谷がつながっていない。この部分をつなげていく取り組みが大切だと思う。
- ・能美市は他の自治体に比べてコンパクトで平地が多く、暮らしやすいまちだと思う。このことを全国の皆さんに知っていただき、能美市の暮らしやすさをアピールしながらまちづくりを進めていければよいと思う。

◆委員

- ・総論は大事である。13ページの「(10)健康・医療・福祉」については、救急医療、地域のボランティア、妊娠・出産・子育てのことしか書かれていない。在宅医療や介護、高齢者、障がい者、認知症のことが抜けている。15ページの住みよさランキングや介護・高齢化対応度調査の結果で良い順位となっている重要な要素であることから、ぜひ医師会の取り組みも踏まえて見直しをお願いしたい。また、タイトルの中に「介護」を加えるべきである。地域包括ケアシステムの報告書の中でも、「医療・介護・福祉」が柱となっている。今まであまり気づかなかったが24ページや29ページにおいても「介護」のことが抜けているので、ぜひ入れていただければ、介護に携わる人々が勇気づけられてますます頑張ると思う。よろしくをお願いしたい。

◆会長

- ・ご指摘のとおりであり、その部分については変更させていただきたい。

◆委員

- ・ふるさと教育、自然環境教育については非常に大事である。低い山ではあるが生物多様性に恵まれていることから、環境教育や子どもたちの体験教育にぜひ利用していただきたい。そうすれば、外へ出てからもふるさとが懐かしい、戻りたい(Uターン)ということにつながると思う。また、情操教育や芸術家輩出の可能性も出てくると思うので、ぜひ推進していただきたい。

◆委員

- ・54ページ「移住・定住の促進」について、地域おこし協力隊に関する記述がない。新聞を広げると、能登方面では毎日のように地域おこし協力隊の記載がみられる。都市部の人を招いてそこで自立できるよう試行されていると思うので、せっかくの取り組みを追加してはどうかと思い発言した。

◆会長

- ・移住・定住については、若い人に来てもらって子育てをしてもらうということかと思う。そのためには、企業誘致をうまく活用し、そこで働く人に能美市に住んでもらうことが重要である。単に工業団地を整備して企業誘致をするだけでなく、その周辺にショッピングセンターや公共交通、住むための土地やアパートなどを整備し、企業誘致を総合的な移住・定住施策として捉えて推進していただきたい。
- ・個人的に強調していただきたいのは「住みやすさ」「子育て」「教育」である。他都市では「子育て」と「教育」をリンクしたアピールはあまりしていないと思う。
- ・「九谷」については、日常使いの食器製造・販売だけでは活性化しない。茅ヶ崎にあるＴＯＴＯでは、衛生陶器の製造だけでなく、その技術を使って他分野に進出したことで成功している。「九谷」も同様に、食器製造や芸術作品の創造を続けながら、その技術をどこに展開できるのかを考えていく必要がある。先端大としてもぜひ協力させていただきたい。
- ・個人的にも能美市は大好きであり、先端大の学生を含めてできるだけ多くの若者が能美市に定着してくれればよいと思っている。この素晴らしい能美市総合計画をどのように実行していくのか、今日の委員の皆様のご意見も踏まえてもう一ひねりお願いしたい。

(2) 最終答申について

◆会長

- ・今回の意見を踏まえて再度修正したうえで、市長に最終答申したいと思う。

◆事務局

- ・各委員から貴重なご意見をいただいた。寺野会長も申された通り、手直しできるところはしっかりと修正し、最終答申を行いたい。また、今回のご意見に対し、どこをどのように修正したかを整理し、委員各位に見えるように資料を配布させていただきたいと思う。
- ・第一次の計画のときには細かな事業が表現されておりイメージしやすい内容となっていたが、反面、時代の変化等によって計画に盛り込まれていない課題が生じることがあった。このことから、第二次の計画では全体的に施策レベルの表現としており、具体性に欠けている点は本日の各委員のご指摘のとおりである。庁内のそれぞれの施策分野において、いつどのように取り組んでいくかを整理し、目標指標の設定根拠についても明らかにして市民の皆様と情報共有していきたい。
- ・総論（３ページ）にも記載しているが、本計画の期間は１０年である。行政評価を毎年行いつつ、前期３年、中期３年、後期４年の各期最終年において必要な部分を修正しながら進めていきたいと考えている。
- ・いただいたご意見すべてを修正することは難しいかもしれないが、各期で見直しを行

いながら進めていくことをご理解いただきたい。

◆会長

- ・ 5月19日に私のほうから市長に答申させていただく予定である。各組織・団体にお持ち帰りいただき、もし何かご意見があれば、遅くとも今日・明日中に事務局までお伝えいただきたい。
- ・ 非常にタイトなスケジュールであることから、最終的な計画の修正や答申の内容については、私のほうに一任いただければと思うがどうか。→ 一同了承
- ・ では、私のほうで責任をもって市長に答申させていただくこととする。幸い、若い市長にこれからハンドリングしていただくということで、この10年が短く感じられるくらい能美市を良くして市民の皆様から評価をいただけるよう、ご活躍・ご検討いただければと思う。

5. 閉会

◆事務局

- ・ 寺野会長をはじめ、委員の皆様にはお忙しい中、本日に至るまでの長期間にわたり、本市の新しいまちづくりの基礎となる総合計画について、大変貴重なご意見やご提案をいただきながらご審議いただいた。まちづくりのテーマにもあるとおり、「市民が躍動し、地域が輝く 能き美しきまちづくり」に向けて、市民や企業、大学の皆様と連携し、市役所一丸となって取り組んで参りたいと思う。これからもご指導ご鞭撻いただくことをお願いし、閉会の挨拶とする。誠にありがとうございました。

－ 以 上 －